

2024 年第 41 週の報告です。

手足口病の警報レベルは、全国・京都府で継続中です。京都府の定点当り報告数は微減が続いていましたが、今週は 7.63 に増加しました。保健所別では、先週の警報レベルの地域でそのまま継続しているほか、京都市上京区の定点当り報告数が 5.33 まで増加し、新たに警報レベルになりました。咽頭結膜熱は山城北で定点当り 3.20 件報告され、同じく新たに警報レベルとなっています。その他、水痘が京都市左京区で注意報レベルです。眼科定点では流行性角結膜炎が 12 件、基幹定点では無菌性髄膜炎が 1 件、マイコプラズマ肺炎の報告がまた増加し、今週は 30 件の報告がありました。

全数報告対象の感染症は、2 類は結核が 3 件、3 類は腸管出血性大腸菌感染症、4 類のつが虫病・デング熱・日本紅斑熱・レプトスピラ症、5 類のカルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症・劇症型溶血性レンサ球菌感染症・侵襲性肺炎球菌感染症・梅毒がそれぞれ 1 件報告されています。同じく 5 類の百日咳は 2 件報告されました。

今週は様々な疾患の報告がありました。特に虫や動物などを介して感染する 4 類感染症の報告が種々見られました。少し涼しくなり蚊やダニの動きも活発になっています。国内外での感染が報告されておりますので、咬まれないように十分に対策を行い、何か症状が出た場合は近くの医療機関を受診しましょう。

レプトスピラ症は、ネズミ等の保菌動物の尿で汚染された水や土壌から、レプトスピラ菌が経皮的・経粘膜的に感染する人獣共通感染症です。河川での感染例（長時間水にさらされるレジャー活動や作業）が多く、特に大雨や洪水の後にリスクが高くなります。潜伏期間は 3~14 日程度で、感冒様症状のみで軽快する軽症型と、黄疸・出血・腎障害を伴う重症型（ワイル病）とがあります。重症型は治療介入が遅れると致死率が上がるため、病気を疑った場合はすぐに医療機関を受診してください。

詳しい情報はこちらをご参照ください。

京都府/レプトスピラ症（ワイル病）：

<https://www.pref.kyoto.jp/idsc/disease/documents/05leptospirosis.pdf>

京都府/人獣共通感染症：https://www.pref.kyoto.jp/doubutsu/k_kansen.html